

スポーツ施設の植栽等管理一般仕様書

令和5年4月1日

公益財団法人山梨県体スポーツ協会

スポーツ施設の植栽等管理一般仕様書

1. 目的

スポーツ施設は、各種公式競技会等が開催されることから、未然に事故等の防止を行うとともに、利用者が安全で快適な競技ができる環境を整え、施設本来の機能を適切に維持することを目的とする。

2. 適用範囲

公益財団法人山梨県体育スポーツ協会が管理する小瀬スポーツ公園、富士北麓公園、境川自転車競技場のスポーツ施設の維持管理に適用する。

3. 保守管理施設

各スポーツ施設は、その機能を維持するため以下の作業を実施するものとする。

(1) 小瀬スポーツ公園 野球場

1) 芝生の保守管理

1. 刈り込み

- ① 芝生地内にある石、他等の障害物は、あらかじめ取り除く。
- ② 芝生地内にある散水栓、ポイント等は、破損しないよう注意し、刈むら、刈残りのないよう均一に刈り込みを行う。
- ③ 刈り込みの高さは時期に応じて変更する。
- ④ 刈り取った芝は、速やかに処理するとともに、刈跡はきれいに清掃する。

2. 施肥

- ① 所定の施肥量を芝生面に均一に、むらのないように散布する。
- ② 降雨直後で葉面がぬれている場合など施肥条件の不良時は、作業を行わない。

3. 目土かけ

- ① 目土は、ゴミ、雑草、根茎等のきょう雑物が混入しないふるい分けしたものをを用いる。
- ② 土壌改良剤、肥料を混入する場合は、混入率に注意し入念に混合して使用する。
- ③ 目土は、厚さを均一し、不陸整正を勘案しながら行う。

4. 除草

① 抜き取り作業

- ・ 雑草の根から丁寧に抜き取る。
- ・ 抜き取った草は速やかに処理し、除草跡はきれいに清掃する。

- ② 薬剤除草
 - ・ 除草対象となる雑草の種類、生育段階（休眠期・発芽期・幼葉期・盛期）、除草剤に対する性質また、使用薬剤の特性、使用方法を十分把握し、来園者へ周知徹底して作業を行う。
 - ・ 散布日は、風、日照、降雨等、天候条件を考慮し、検討を加えて実施する。
 - ・ 希釈液は、濃度を正確に調合し、指定量を均一に散布するものとする。
 - ・ 芝生地内の散水装置その他、来園者にかからないよう十分注意する。
- 5. エアレーション
 - ① エアレーション器具または、機械を用い、土壌が膨軟となるよう効果的に行う。
 - ② 穴及び、カッティングの深さや間融は検討して実施する。
- 6. 病虫害防除
 - ① 薬剤防除
 - ・ 薬剤の使用に際しては、農薬取締法（s 2 3 法律 8 2 号）等の農薬関連法規及びメーカー等で定められている使用安全基準、使用方法を遵守し、人畜の安全並びに対象樹木の薬害に十分注意し実施する。
 - ・ 散布方法は、それぞれの特性に応じ、最も効果的な方法で行う。
 - ・ 散布日は、風、日照、降雨等、天候条件を考慮し選定する。
 - ・ 散布は濃度を正確に希釈混合し、病虫害被害部分を中心にむらなく散布する。
 - ・ 作業は風下から行い、散布対象植物以外や来園者にかからないよう十分注意して行う。
 - ・ 作業に携わる場合は、ゴム手袋・マスク・帽子・メガネ・被服等を完全に着用し、人体への影響に十分配慮する。
 - ② 灌水：葉面散布
 - ・ 葉面上の粉塵などを洗い落とすよう前後・裏表方向を変えて水をふきつける。
- 7. 灌水
 - ① 所定の灌水量を芝生全面に行き渡るように、均一に散水する。
- 8. ブラッシング
 - ① レーキ・ホーク等で芝生面を丁寧に引っかき、ほふく茎や根などを切断するとともに、茎葉の間の枯葉・枯茎（サッチ）を除去する。
 - ② 発生した枯葉・枯茎等は、速やかに処理するとともに、ブラッシング跡は、きれいに清掃する。
- 9. 補植
 - ① 補植箇所は、大きめに形を整えて切り取り、深さ 1 5 c m 程度まで床土を交換し、沈下を防ぐため、適度な転圧を行う。

- ② 張り芝は、周縁と同じ高さとなるよう調整し、植え付け、転圧を加え目土を施し十分灌水する。

2) クレイグラウンドの保守

1. 表面整備は、グラウンドコート舗装の使用機械を用い、むらなく均一に整正する。
2. 不陸整正転圧は、グラウンドコート舗装の使用機械を用い、均一に整正、転圧する。
3. グラウンド内にある散水栓、ポイント等は、破損しないよう注意する。
4. 夏期の乾燥期においては苦汁の散布を行う。
5. 冬期整備においては霜凍上による表層硬度の低下をさせてしまうため、グラウンドコートの機械を使用し耕運、不陸整正、表面処理を行う。

(2) 小瀬スポーツ公園 陸上競技場・補助競技場

1) 芝生の保守管理

1. 刈り込み

- ① 芝生地内にある石、他等の障害物は、あらかじめ取り除く。
- ② 芝生地内にある散水栓、ポイント等は、破損しないよう注意し、刈むら、刈残りのないよう均一に刈り込みを行う。
- ③ 刈り込みの高さは時期に応じて変更する。インフィールドは基本的に4月～8月に低刈し、冬芝（ライグラス）にストレスを与え、ティフトンのほふくを促進させる。（陸上競技場）
- ④ 刈り取った芝は、速やかに処理するとともに、刈跡はきれいに清掃する。

2. 施肥

- ① 所定の施肥量を芝生面に均一に、むらのないように散布する。
- ② 降雨直後で葉面がぬれている場合など施肥条件の不良時は、作業を行わない。
- ③ インフィールドについては、芝の緑色が薄くなるので、液肥肥料と併せて状況をみて着色剤散布を行う。（陸上競技場）

3. 目土かけ

- ① 目土は、ゴミ、雑草、根茎等のきょう雑物が混入しないふるい分けしたものをを用いる。
- ② 土壌改良剤、肥料を混入する場合は、混入率に注意し入念に混合して使用する。
- ③ 目土は、厚さを均一し、不陸整正を勘案しながら行う。

4. 除草

- ① 抜き取り作業
 - ・ 雑草の根から丁寧に抜き取る。

- ・ 抜き取った草は速やかに処理し、除草跡はきれいに清掃する。
- ② 薬剤除草
 - ・ 除草対象となる雑草の種類、生育段階（休眠期・発芽期・幼葉期・盛期）、除草剤に対する性質また、使用薬剤の特性、使用方法を十分把握し、来園者へ周知徹底して作業を行う。
 - ・ 散布日は、風、日照、降雨等、天候条件を考慮し、検討を加えて実施する。
 - ・ 希釈液は、濃度を正確に調合し、指定量を均一に散布するものとする。
 - ・ 芝生地内の散水装置その他、来園者にかからないよう十分注意する。
5. エアレーション
 - ① エアレーション器具または、機械を用い、土壌が膨軟となるよう効果的に行う。
 - ② 穴及び、カッティングの深さや間融は検討して実施する。
 6. 病虫害防除
 - ① 植え込み地の薬剤防除に準ずる。
 - ② 希釈液は、指定の濃度に正確に混合し、指定量を均一に散布するものとする。まきむらをなくすため、必要に応じ補正散布を行う。
 7. 薬剤防除
 - ① 薬剤の使用に際しては、農薬取締法（s 2 3 法律 8 2 号）等の農薬関連法規及びメーカー等で定められている使用安全基準、使用方法を遵守し、人畜の安全並びに対象樹木の薬害に十分注意し実施する。
 - ② 散布方法は、それぞれの特性に応じ、最も効果的な方法で行う。
 - ③ 散布日は、風、日照、降雨等、天候条件を考慮し選定する。
 - ④ 散布は濃度を正確に希釈混合し、病虫害被害部分を中心にむらなく散布する。
 - ⑤ 作業は風下から行い、散布対象植物以外や来園者にかからないよう十分注意して行う。
 - ⑥ 作業に携わる場合は、ゴム手袋・マスク・帽子・メガネ・被服等を完全に着用し、人体への影響に十分配慮する。
 8. 灌水：葉面散布
 - ① 葉面上の粉塵などを洗い落とすよう前後・裏表方向を変えて水をふきつける。
 9. 灌水
 - ① 所定の灌水量を芝生全面に行き渡るように、均一に散水する。
 10. ブラッシング
 - ① レーキ・ホーク等で芝生面を丁寧に引っかき、ほふく茎や根などを切断するとともに、茎葉の間の枯葉・枯茎（サッチ）を除去する。
 - ② 発生した枯葉・枯茎等は、速やかに処理するとともに、ブラッシング跡は、きれいに清掃する。

11. 補植

- ① 補植箇所は、大きめに形を整えて切り取り、深さ15cm程度まで床土を交換し、沈下を防ぐため、適度な転圧を行う。
- ② 張り芝は、周縁と同じ高さとなるよう調整し、植え付け、転圧を加え目土を施し十分灌水する。

(3) 小瀬スポーツ公園 テニス場

1) 芝生の保守管理

1. 刈り込み

- ① 芝生地内にある石、他等の障害物は、あらかじめ取り除く。
- ② 芝生地内にある散水栓、ポイント等は、破損しないよう注意し、刈むら、刈残りのないよう均一に刈り込みを行う。
- ③ 刈り込みの高さは時期に応じて変更する。
- ④ 刈り取った芝は、速やかに処理するとともに、刈跡は、きれいに清掃する。

2) 人工芝生の保守

1. 日常の手入れは、ブラッシングを中心に行う。表面の砂のかたよりをなくするため、コートブラシを用いてコートラインの内外全域をブラッシングする。
2. 使用の苛酷なベースライン付近が他の場所より砂が移動しやすいので、全面を横方向に連続してブラッシングしていくと均一な状況になる。
3. 雨が予想される場合は、降雨前にブラッシングすることにより雨が止んでも良い状態となる。
4. 降雨中に使用した場合は、コートが乾いてからブラッシングする。
5. 落ち葉、枯葉等は、竹ぼうき、熊手、コートブラシなどを用いて清掃する。

(4) 小瀬スポーツ公園 球技場

1) クレイグラウンドの保守

1. 表面整備は、グラウンドコート舗装の使用機械を用い、むらなく均一に整正する。
2. 不陸整正転圧は、グラウンドコート舗装の使用機械を用い、均一に整正、転圧する。
3. グラウンド内にある散水栓、ポイント等は、破損しないよう注意する。
4. 夏期の乾燥期においては苦汁の散布を行う。
5. 冬期整備においては霜凍上による表層硬度の低下をさせてしまうため、グラウンドコートの機械を使用し、耕運、不陸整正、表面処理を行う。

(5) 富士北麓公園 野球場

1) 芝生の保守管理

1. 刈り込み

- ① 芝生地内にある石、他等の障害物は、あらかじめ取り除く。
 - ② 芝生地内にある散水栓、ポイント等は、破損しないよう注意し、刈むら、刈残りのないよう均一に刈り込みを行う。
 - ③ 刈り込みの高さは時期に応じて変更する。
 - ④ 刈り取った芝は、速やかに処理するとともに、刈跡はきれいに清掃する。
2. 施肥
- ① 所定の施肥量を芝生面に均一に、むらのないように散布する。
 - ② 降雨直後で葉面がぬれている場合など施肥条件の不良時は、作業を行わない。
3. 目土かけ
- ① 目土は、ゴミ、雑草、根茎等のきょう雑物が混入しないふるい分けしたものをを用いる。
 - ② 土壌改良剤、肥料を混入する場合は、混入率に注意し入念に混合して使用する。
 - ③ 目土は、厚さを均一し、不陸整正を勘案しながら行う。
4. 除草
- ① 抜き取り作業
 - ・ 雑草の根から丁寧に抜く。
 - ・ 抜き取った草は速やかに処理し、除草跡はきれいに清掃する。
 - ② 薬剤除草
 - ・ 除草対象となる雑草の種類、生育段階（休眠期・発芽期・幼葉期・盛期）、除草剤に対する性質また、使用薬剤の特性、使用方法を十分把握し、来園者へ周知徹底して作業を行う。
 - ・ 散布日は、風、日照、降雨等、天候条件を考慮し、検討を加えて実施する。
 - ・ 希釈液は、濃度を正確に調合し、指定量を均一に散布するものとする。
 - ・ 芝生地内の散水装置その他、来園者にかからないよう十分注意する。
5. エアレーション
- ① エアレーション器具または、機械を用い、土壌が膨軟となるよう効果的に行う。
 - ② 穴及び、カッティングの深さや間融は検討して実施する。
6. 病虫害防除
- ① 薬剤防除
 - ・ 薬剤の使用に際しては、農薬取締法（s 2 3 法律 8 2 号）等の農薬関連法規及びメーカー等で定められている使用安全基準、使用方法を遵守し、人畜の安全並びに対象樹木の薬害に十分注意し実施する。
 - ・ 散布方法は、それぞれの特性に応じ、最も効果的な方法で行う。
 - ・ 散布日は、風、日照、降雨等、天候条件を考慮し選定する。

- ・ 散布は濃度を正確に希釈混合し、病虫害被害部分を中心にむらなく散布する。
- ・ 作業は風下から行い、散布対象植物以外や来園者にかからないよう十分注意して行う。
- ・ 作業に携わる場合は、ゴム手袋・マスク・帽子・メガネ・被服等を完全に着用し、人体への影響に十分配慮する。

7. 灌水：葉面散布

- ① 葉面上の粉塵などを洗い落とすよう前後・裏表方向を変えて水をふきつける。
- ② 所定の灌水量を芝生全面に行き渡るように、均一に散水する。

8. ブラッシング

- ① レーキ・ホーク等で芝生面を丁寧に引っかき、ほふく茎や根などを切断するとともに、茎葉の間の枯葉・枯茎（サッチ）を除去する。
- ② 発生した枯葉・枯茎等は、速やかに処理するとともに、ブラッシング跡は、きれいに清掃する。

9. 補植

- ① 補植箇所は、大きめに形を整えて切り取り、深さ15cm程度まで床土を交換し、沈下を防ぐため、適度な転圧を行う。
- ② 張り芝は、周縁と同じ高さとなるよう調整し、植え付け、転圧を加え目土を施し十分灌水する。

2) クレイグラウンドの保守

1. 表面整備は、グラウンドコート舗装の使用機械を用い、むらなく均一に整正する。
2. 不陸整正転圧は、グラウンドコート舗装の使用機械を用い、均一に整正、転圧する。
3. グラウンド内にある散水栓、ポイント等は、破損しないよう注意する。
4. 夏期の乾燥期においては苦汁の散布を行う。
5. 冬期整備においては霜凍上による表層硬度の低下をさせてしまうため、グラウンドコートの使用機械を使用し耕運、不陸整正、表面処理を行う。

(6) 富士北麓公園 陸上競技場・球技場

1) 競技場芝生の保守管理

1. 刈り込み

- ① 芝生地内にある石、他等の障害物は、あらかじめ取り除く。
- ② 芝生地内にある散水栓、ポイント等は、破損しないよう注意し、刈むら、刈残りのないよう均一に刈り込みを行う。
- ③ 刈り込みの高さは時期に応じて変更する。
- ④ 刈り取った芝は、速やかに処理するとともに、刈跡は、きれいに清掃する。

2. 施肥

- ① 所定の施肥量を芝生面に均一に、むらのないように散布する。
- ② 降雨直後で葉面がぬれている場合など施肥条件の不良時は、作業を行わない。

3. 目土かけ

- ① 目土は、ゴミ、雑草、根茎等のきょう雑物が混入しないふるい分けしたものをを用いる。
- ② 土壌改良剤、肥料を混入する場合は、混入率に注意し入念に混合して使用する。
- ③ 目土は、厚さを均一し、不陸整正を勘案しながら行う。

4. 除草

① 抜き取り作業

- ・ 雑草の根から丁寧に抜き取る。
- ・ 抜き取った草は、速やかに処理し、除草跡は、きれいに清掃する。

② 薬剤除草

- ・ 除草対象となる雑草の種類、生育段階（休眠期・発芽期・幼葉期・盛期）、除草剤に対する性質また、使用薬剤の特性、使用方法を十分把握し、来園者へ周知徹底して作業を行う。
- ・ 散布日は、風、日照、降雨等、天候条件を考慮し、検討を加えて実施する。
- ・ 希釈液は、濃度を正確に調合し、指定量を均一に散布するものとする。
- ・ 芝生地内の散水装置その他、来園者にかからないよう十分注意する。

5. エアレーション

- ① エアレーション器具または、機械を用い、土壌が、膨軟となるよう効果的に行う。
- ② 穴及び、カッティングの深さや間融は検討して実施する。

6. 病虫害防除

- ① 植え込み地の薬剤防除に準ずる。
- ② 希釈液は、指定の濃度に正確に混合し、指定量を均一に散布するものとする。まきむらをなくすため、必要に応じ補正散布を行う。

7. 薬剤防除

- ① 薬剤の使用に際しては、農薬取締法（s 2 3 法律 8 2 号）等の農薬関連法規及びメーカー等で定められている使用安全基準、使用方法を遵守し、人畜の安全並びに対象樹木の薬害に十分注意し実施する。
- ② 散布方法は、それぞれの特性に応じ、最も効果的な方法で行う。
- ③ 散布日は、風、日照、降雨等、天候条件を考慮し選定する。
- ④ 散布は濃度を正確に希釈混合し、病虫害被害部分を中心にむらなく散布する。

- ⑤ 作業は風下から行い、散布対象植物以外や来園者にかからないよう十分注意して行う。
 - ⑥ 作業に携わる場合は、ゴム手袋・マスク・帽子・メガネ・被服等を完全に着用し、人体への影響に十分配慮する。
8. 灌水：葉面散布
- ① 葉面上の粉塵などを洗い落とすよう前後・裏表方向を変えて水をふきつける。
 - ② 所定の灌水量を芝生全面に行き渡るように、均一に散水する。
9. ブラッシング
- ① レーキ・ホーク等で芝生面を丁寧に引っかき、ほふく茎や根などを切断するとともに、茎葉の間の枯葉・枯茎（サッチ）を除去する。
 - ② 発生した枯葉・枯茎等は、速やかに処理するとともに、ブラッシング跡は、きれいに清掃する。
10. 補植
- ① 補植箇所は、大きめに形を整えて切り取り、深さ15cm程度まで床土を交換し、沈下を防ぐため、適度な転圧を行う。
 - ② 張り芝は、周縁と同じ高さとなるよう調整し、植え付け、転圧を加え目土を施し十分灌水する。